

<p>2) 基礎演習</p> <p>3) 芸術学ゼミ</p> <p>4) 南島文化研究所</p>	<p>2010年4月～現在至</p> <p>2011年4月～</p> <p>2010年5月</p>	<p>不可：12名</p> <p>【特記事項】</p> <p>独自の教育手法において ARCS モデルの導入や ISD に沿った到達目標、内容設計を行っている。導入時は参加意識と準備意識を高めるためアンケートなども実施している。また、授業の振り返りを促進するために独自のブログを開設しており、個人学習がいつでもどこからでも可能である。また、特別講義も通年を通して2回実施した。</p> <p>2010年度は、卒業論文などに必要な知識と文章力をつけるため、論理的思考ロジカルフレームワークを身につけさせる学習法を導入した。そのため、基礎的な知識と教養が身につく設計である。</p> <p>ゼミ科目では、沖縄で開催されている主展示会などを見学し、現場で意見交換会や調査を行っている。また、メジャーなコンテストや企画展なども学生を中心に作品を作成し、出展している。さらに、外部からも映画監督や美術家・写真家なども招聘して充実したゼミを実施している。</p> <p>本学南島文化研究所にて研究している「視覚情報における認知と行動変容」に関する公開講座を実施した。</p>
<p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>1) 芸術学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>2) 情報文化論Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>2010年4月～現在至</p> <p>2010年4月～現在</p>	<p>独自の教育手法において ARCS モデルの導入や ISD に沿った到達目標、内容設計を行っている。導入時は参加意識と準備意識を高めるためアンケートなども実施している。また、授業の振り返りを促進するために独自のブログを開設しており、個人学習がいつでもどこからでも可能である。また、特別講義も通年を通して2回実施した。さらに、授業評価アンケートや独自の評価シートで、学生の理解度、興味、教授法などを計り、毎年度、適宜修正を加え、教材作成・開発を行っている。</p> <p>理解度の低い学生に対しては、授業終了後、研究室にて補講を適宜実施している。</p> <p>基本的に座学の授業なのでいくつかの参考資料を</p>

	在至	<p>独自に開発し、教材として編集している。本学学生に必要な項目を講義内容としてパワーポイントにまとめて使用している。</p> <p>主な参考資料は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■デジタルメディア社会 ■情報とメディア教育の社会学 ■21世紀のメディア論 ■情報文化入門
<p>3. 学生支援活動</p> <p>1) 学習支援 補修授業の実施</p> <p>入学オリエンテーション</p> <p>学習不振者への支援</p> <p>2) キャリア支援 就職、進学指導</p> <p>3) サークル・部活動</p>	<p>2011年～</p> <p>2010年～</p> <p>2010年～</p> <p>2011年～</p> <p>2011年～</p>	<p>授業のない時間に自分の研究室を「学び場」として学生たちに提供し、科目を超えて各々の課題に取り組む</p> <p>入学時のオリエンテーションやプレイスメントのサポートをし、入学時からの計画的学習・勉学を志すよう指導している。</p> <p>学習意欲はあるが人前での発表やグループワークなどが不得意、またはこれらの事で悩んでいる学生は増加している。これらの問題を解決するために「リメディアル教育」を独自で学び、該当する学生の相談や解決法を話し合い、円滑な学習ができるよう支援している。</p> <p>本学では芸術関連や国際関連のキャリア指導、相談窓口が充実してないことから私へ直接相談してくる学生が多い。そのため、独自でそれらの関連資料を収集し、助言している。今年度の夏休みに JICA が実施する学生レポーターとしてケニア、ベトナムへ派遣目指して指導している。</p> <p>硬式野球部部长、美術クラブ顧問、写真クラブ顧問、ロッククラブ顧問を引き受け、健全な学生を育成している。</p>
<p>4. 学外での教育活動</p> <p>沖縄県立芸術大学での非常勤講師</p>	2011年～	<p>「芸術とキャリアデザイン I」を担当している。受講生は 52 名、毎週月曜日 10 : 20～12 : 00。</p>

JICA 沖縄国際センター特別講師	2010 年～	沖縄県帰国専門家連絡会副会長に就任し、JICA 沖縄国際センターが実施しています医療関連コースで「行動変容学」を担当している。
沖縄県文化振興	2011 年～	沖縄県芸術文化祭写真部門の審査・講評
沖縄県社会福祉協議会	2010 年～	かりゆし美術展実行委員並びに審査・講評
沖縄県水道局	2010 年～	デジタルフォトコンテスト審査員・講評
5. 教育改善活動(FD など)		
1)2010 年度の授業評価アンケート	2010 年	学生による授業アンケート（情報文化論 I 前期）において、平均評価 3.6 の評価を得た。しかし、質問項目の「授業の内容をよく理解できましたか」に対して 3.3 という低い評価を得た。その理由として、「分野そのものが新しい学問なので専門用語になれていなく、言葉そのものに理解できなかった」と思える。そのことを受けて、後期では専門用語集を作成し、分かりやすく噛み砕いて説明を試みた。
2) FD 研修会への参加	2010 年	JICA 沖縄国際センターにて、フロリダ州立大学から J・M ケラー博士が来沖、インストラクショナル・デザインに関する ARCS モデルの勉強会に参加し、知見を得た。
3) FD に関する企画・運営 FD に関する紀要論文作成	2011 年	本学で担当している「芸術学」において、インストラクショナル・デザインに関する検証を ARCS モデルを採用しさまざまなデータを取り、今年度の本学の紀要論文で発表する予定である。
4) FD 共通科目強化（筑波スタンダードに基づく教養教育の再構築）	2011 年	本学を代表して、筑波大学教養教育機構が主催する筑波スタンダードに基づく教養教育の再構築中間報告に参加した。本学でも問題となっている教養科目の強化をどのように実施しなければならないか、当機構の先生方と意見交換をした。今後、その知見を担当する科目に活かしていく予定である。
5) リフレクションシートの活用	2011 年	独自の教育手法において ARCS モデルの導入や ISD に沿った到達目標、内容設計を行っている。導入時は参加意識と準備意識を高めるためアンケー

6) その他、教育改善活動	2011 年	<p>トなども実施している。また、授業の振り返りを促進するために独自のブログを開設しており、個人学習がいつでもどこからでも可能である。また、特別講義も通年を通して 2 回実施した。さらに、授業評価アンケートや独自の評価シートで、学生の理解度、興味、教授法などを計り、毎年度、適宜修正を加え、教材作成・開発を行っている。従って、リフレクションシートの活用は効果的であり、今後の教材開発に必要不可欠である。</p> <p>本学も他大学同様 FD 開発が急務であり、研究業務のみならず教育指導の強化を図らなければ学士の質が問われることになるだろう。そうならないために、事前テスト、中間テスト、事後テスト、さらに、インストラクショナル・デザインに沿った形で教材開発が必要である。その対象となる履修生の事前準備、参加意識を促すための工夫が必要である。その工夫の 1 つで ARCS モデルの検証が担当科目で実施しなければならない。その実施に向けて教材開発、改善を図るよう最善を尽くして行きたい。</p>
---------------	--------	--

研究業績等

【 主要論文及び主要著書 】

1995 年「ヤング・ジャパニーズ・フォトグラファー」(共著)(沖縄県名護市教育委員会)

1995 年「沖縄戦後美術の流れシリーズ 1 モダニズムの系譜」出品(沖縄県)

2002 年「タイ王国教育情報技術開発能力向上プロジェクト」ミニッツ(共著)(国際協力機構)

2003 年「タイ王国教育情報技術開発能力向上プロジェクト」中間評価報告書(共著)(国際協力機構・鉱開 JR-04-01))

2004 年「タイ王国教育情報技術開発能力向上プロジェクト」最終評価報告書(共著)(国際協力機構・社会 JR-05-034)

2006 年「インストラクショナル・システム・デザインプロセスに沿って IT プロジェクト案件の検証」(国際協力機構・社会)

2006 年「Communication for all based on ISD」WBT 教材 英語版/日本語版(国際協力機構)

研究分野

映像心理と行動変容学

情報行動学

本学における芸術科目の位置づけと教授法・メディア開発

【E メール・ホームページ等】

huramoto@okiu.ac.jp